

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
心理学理論と心理的支援 Psychological Theory and Mental Support		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験資格取得必修)	社会福祉フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特に無し				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特に無し				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
秋山真奈美	講義棟3階	火・土・授業時間を除く		授業中に指示します
授業の概要				
人を援助するには、日常的に生じてくる「こころ」の現象を、客観的に理解することが求められる。その視点は、決して共感的姿勢に矛盾するものではない。本講義では、社会的動物である人間の「こころ」のしくみを、社会環境との関連に注目しながら理論的に解説するとともに、具体的な支援の方法を紹介する。支援を必要としている対象が何を求めているかを適宜理解する視点を体得して欲しい。				
授業の目標				
心理学における基本的な考え方や心理的支援に関する技法を紹介するので、これらを ①社会生活および自他の理解を深めるのに利用できるようにする。 ②支援者としてのスキルアップの一助とすることができるようにする。 ③支援の理論的根拠として説明・記述できるようにする。				
授業の方法				
主として講義形式にて進行するが、「心理的支援の実際」においては若干の演習的手法を組み入れる予定である。各単元の終了ごとに小テストを行い復習する。 好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。				
学習の成果（学習成果）				
(1)社会福祉士に要求される心理学の基礎知識と、心理療法の理論的背景を説明することができる。 (2)支援を必要とする対象が何を求めているかを適宜理解する視点と、心理的支援技法とを身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：人を理解する手段としての心理学 「こころ」の存在へのアプローチ 心理学の誕生と発展 社会福祉実践と心理学			
第2回目	性格：類型論と特性論 心理学的アセスメントの実際（発達検査 知能検査 他）			
第3回目	感情：感情の役割 情動と生体反応 感情の発達 記憶に及ぼす情動の影響			
第4回目	欲求と動機づけ：欲求階層説 動機づけと行動 欲求不満と葛藤 適応と不適応			
第5回目	感覚・知覚・認知：刺激と感覚 知覚のしくみ 認知地図			
第6回目	学習：条件づけ 観察学習 洞察			

第7回目	記憶：記憶のしくみ 記憶の役割 忘却 脳と「こころ」	
第8回目	知能・創造性・思考：知能の発達とアセスメント 創造性とは 思考の内的過程	
第9回目	人間環境と集団：対人認知と対人行動 自己開示・自己呈示と適応 集団社会で起こる様々な現象	
第10回目	人間環境と集団：集団が個人に及ぼす影響 集団ダイナミクス ソシオメトリー ソーシャル・サポート 福祉現場の人間関係	
第11回目	心理療法：来談者中心療法 学習理論と行動療法 精神分析療法 遊戯療法 心理劇とロールプレイング 家族療法	
第12回目	中間論述試験 対人交流とコミュニケーション：言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション	
第13回目	対人交流とコミュニケーション：対人援助におけるコミュニケーションの実際 アサーション 傾聴 社会的技能訓練法	
第14回目	適応とストレス：ストレスとは ストレス・マネジメント	
第15回目	適応とストレス：心理療法による介入 ソーシャルワーカーに求められるもの	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
	授業参加態度	15% コミュニケーションに関する演習での積極性を高く評価する。
	レポート	40% 「社会福祉現場における心理的支援について」、第15回授業に提出。社会福祉に携わる者としての自覚はもちろんのこと、視点にオリジナリティとバランスの良さがあることを期待する。
	調査報告書	
	小テスト	5% 単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施する。日常の努力点として勘案する。
	試験	40% 理論解説終了後に中間試験を実施。授業の目標①～③が反映された、設問への妥当な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。
	発表内容（態度含む）	
	その他	
教科書と参考図書		
教科書：『心理学理論と心理的支援』社会福祉士養成講座編集委員会〔編〕中央法規。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。		
履修上の留意点・ルール		
この授業では理論の他に、心理的支援をするためのコミュニケーションの基礎を学ぶことを重視する。従って、コミュニケーション上好ましくない行為（例えば私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加）は減点の対象とするので、そのつもりで履修すること。		